

日本クリスチャン・アシュラム連盟

春季号

開 心  
静 聴  
充 満  
献 身  
奉 仕

# 日本アシュラム

Spring 1982

United Christian Ashrams of Japan

39

連盟は創始者の初りによつて各地に生れたアシュラムの全国的な交わりであつて、常に新しい家族(単位)の参加を期待している。



北欧フィンランドで

## 第五回国際アシュラム

七月十五日から四日間

「イエスは主なり」の信仰に徹する運動として五十年前に始まったアシュラムは十年前から国際アシュラムをエルサレム、サトタル、日本、サトタルと守つてきて、今夏第五回をヘルシンキ市郊外で開催すること

になった。ここは世界十五ヶ国中最も盛んで強力な聖会の催されている国である。参加者は彼らの燃ゆる信仰によつて温められるであろう。序でに北欧四ヶ国(デンマーク、スウェーデン、ノルウェー)の独特な風情を観光するが、何より神の国の

## 連盟今年度の二大企画

スタンレー・ジョーンズの後継者

## ジェームス・マシウス博士夫妻

今秋来日して各地を指導



ジム・マシウス

四年前に第三回国際アシュラムがわが国で開かれた時、来日予定の都合がつかず、非常に残念であったが、今回はマ博士自ら単独でも日本のアシュラムを応援しようと意気込んでおられ、連盟は喜んでお迎えすることに決定した。

マ博士夫人は故スタンレー師の一人娘であり、夫妻揃って長く父スタンレーの世界伝道に協力、その最後の看病、遺言により『神の然り』を編集出版、今や世界各国で愛読されている。マ博士は学生時代にスタンレーの説教を聞いて献身し、インドルに宣教師として赴任、(次頁へ)

新情景を見るためであり、単に外国の事情を知るのではなく、自らを改変されること、帰国してから御わざにつくための実習であり、各国の信友との霊交を深める好機である。単なる旅行でなく、『権勢によらず、力なく、わが霊による』と言われる主の御足跡を歩む者とされたい。  
日本グループは連盟主唱の下、西鉄旅行社上野支店に係を置いて、参加者を募集中である。期間は七月十四日(水)夜成田発北極廻りSAS機でヘルシンキ着、十五日から四泊の国際アシュラムに出席。十九日(月)市内見学、夜豪華船でストックホルムに、二十日市内見学、二一日午後オスロ着、二二日市内見学、二三日は列車でフィヨルドの地フラムへ、二四日は観光船とバスでベルゲンへ、二五日市内見学、二六日童話の国デンマークへ、午後コペンハーゲン市内見学、二七日午後同市発SAS機で北廻り、二八日夕刻成田帰着。  
費用は以上十五日間の旅費、食費、宿泊費一切で金六十二万円である。但し旅券を新しく取る必要の方は、その印紙代、手数料、任意保険料、その他私用の経費を別に用意しなければなりません。参加希望の方は連盟事務局または西鉄上野支店に案内書をお出し下さい。既に参加の申込は海老沢、大石宇都宮、各夫妻、桐生姉妹、淵江夫人、その他教名からきています。

発行人 大石 嗣郎  
定価 一部60円 千60円

サトタル・アシラムにも早くから参加、師亡き後、米国メソジスト・ワシントン地区監督の傍ら、全米アシラム連盟の理事長、サトタルの委員長として、師の後継者として有力な活動をされ、国際アシラムの召集者でもある。

このような指導者を今秋わが国に迎え、関東地区(九月二十二-二十四)を初め、四国、関西、九州、中部、東北の各地区でアシラムを指導して頂けることは幸いである。各地の信友兄弟がぜひ都合して何れかの聖会に出席されるよう期待する。

### ◇ ジム・マシウズの横顔

第一頁の写真は十数年前のもので可成り若く見えるが、一九一三年生れて、車掌をしていた頃、伝道集会の帰途に主の召命を聞き、ニューヨーク神学校、ボストン大学神学部を卒業、スタンレーより三十年後にインドに派遣され、ボンベイで伝道、師の娘ユニスと結婚、サトタル・アシラムに惹かれ夫妻で協力、英国ケンブリッジ大学でインド学を、コロンビア大学に「ガンジの宗教的教訓に関する論文」を提出、哲学博士号を受けた。

四三才の時、インドのメソジスト教会監督に選ばれたが、インド人が指導者となる時代がきていとて辞退したが、四年後に米国のワシントン地区監督に、またボストン地区監

督に選ばれ、二年前まで奉仕された。これより先、父スタンレーは米国立連盟理事会で将来のことを語った中で、「私の娘婿が米国アシラム運動の委員長、理事会の長となり、また世界アシラムの召集者に指名されることを望むが、私は彼を皆様と神とに推薦する」と述べ、一同賛成するところとなった。仲間は彼をジム兄弟と愛称で呼んでいる。一男二女の父であり、その容姿は義父スタンレーに似て大型で悠々迫らないものがある。著書四冊、父の文集編著二冊があり、数ヶ所の大学で講師、六大学から名誉博士号を贈られ、全米的、国際的団体の理事や評議員として奉仕している。その信仰、人格識見を以て「イエスが主である」とを有力に証している世界人である。

### 恵みの時 『わたしを愛するか』

海老沢宣道

聖書・ヨハネ福音書二一章

私たちは「イエスは主である」という告白をするだけでなく、「主は実に甦えられた」とお互いに挨拶をします。それはイエス様が私たちのために降誕、受肉され、教え、医し、導き、十字架による贖罪をなしとげ、救主となつて下さったことを覚え、

感謝し、偉大なるお方として尊敬するだけでなく、死にも勝ち復活され、永遠に、従て今日も生きて私たちを愛し導いておられることを信じるからです。

復活の主は三日目の日曜日に、まだエルサレムの二階座敷にかくれていた弟子たちに既に御姿を現わされたので、彼らは主の復活を信じることでできた筈でした。しかしマタイとヨハネとはなぜか使徒たちがガラヤヤへ帰っていた時の、そこにも復活の主がお出でになったことを書いています。その理由はいくつか挙げられますが、一つ大切な事は復活の主がどこにでも共に居て下さるということではないでしょうか。

そしてテペリヤの海で昔のように漁をしていた弟子たちに現われ、朝食を共にされたあと、ペテロに重大な質問をされました。「シモンよ」と入信前の個人名と呼ばれ、「この人たち以上に(誰よりも)私を愛するか」と三度くり返し、ペテロがその度に「主よ、そうです。私があなたを愛することは、あなたがごぞんじです」と答えました。ここで奇妙な事は主の問の言にある愛は、アガペーであり、ペテロの答の愛はフィリアの語が使われていることです。大した相異はないと言う人もいますが、私は聖愛と親愛との違い位はあると思います。以前のペテロは「た」とい皆がつまずいても私はつまずき

ません」ととか「あなたのためには命も捨てます」とか自信たっぷりな決心を述べたのですが、大祭司の中庭で人々の質問に会い、主を知らない三度も否定してしまいました。彼は今ここで復活の主から愛の誓約を求められた時、あの失敗を思い出し、て心痛を覚えたにちがいありません。だから彼は謙遜にも、自分の主に対する愛を断言せず、私以上に私一切をごぞんじの主による確認にお委ねしたのでした。その都度、与えられた御命令は「祈りを以て私の幼な子らを育てよ」であり「言葉もて私の若者たちを導け」であり、「行為もて私の信者を養え」でありました。

最新刊  
スタンレー・ジョーンズ博士の遺著  
**神の然り** B6判 220頁  
定価1200円 送料250円  
〈キリストに明け渡した人生〉  
海老沢宣道訳

伝道者として十一年間、病中一年、倒れた後、戦後十回、救霊のため、日本を愛し、終えられた万人の編纂者による必読書。

発行所 日本クリスチャン・アシラム連盟

(ロ) マ書十章九節

アシラムの五大原則  
(一) キリストへの明渡し



ここに主イエスは単に感謝と尊敬を払われるだけでなく、現実的な愛の交わりを求めておられること、主を愛するならば、牧会や伝道のみわざに献身すべきことを期待されています。更に主はペテロに対して殉教の覚悟で服従せよ、と迫られます。コイノニヤ(靈交)とサレンダー(明け渡し、服従)とは切離すことができません。コイノニヤだけを求め楽しむのは、無責任であり誤りです。ペテロは『若い時には自分の考えで行動していたが、晩年には他の人に行きたくない所へ連れて行かれて、両手をのぼすことになるう。』と主から言われました。これはロマで殉教することを予言されたものと思われます。スタンレー師はある時この『他の人』が主イエスであるなら、私も喜んでどんな行きたくない所へも行く積りだと話されました。主イエスへの服従は、自分の感情や身辺の事情とは関係なく、絶対的なものであります。ペテロは自分がどんな死に方を示された時、そばに来たヨハネのことが気になり、『主よ、この人はどうなるのですか』と聞きたくまりました。主の答は『私に彼が長生きして再臨の時まで伝道して欲しいと望むかも知れないが、それはあなたの事ではない。お前は私に従ってきなさい』でした。私たちに与えられた使命は同じでも、方法は一人一人ちがうのです。

だから最初に主が『この人たちは以上に私を愛するか』と問われたのは、他人と比較して、それより強ければよいと言う意味でなく、『心を尽くし、思いを尽して』ということでしょう。ペテロはその後ロマまで伝道し、有力な信徒を育てましたが、ネロ皇帝の迫害が起り、身の危険を感じ、信徒の勧めもあって、ロマ市を後にしてアッピア街道を逃亡中、三叉路の所で復活の主イエスが歩いて来られるのを見、驚いて『クオバジス』(主よ、いずこへ)とお尋ねすると、『お前の捨ててきた小羊たちを救うために』と言われ、彼は直ちに引返して信徒たちを励まし、捕われ、十字架刑に処せられることになった時、『主と同じ形では勿体ない。逆さにかけてくれ』とそうようにして殉教したということです。今日その街道三叉路の左角にペテロ記念の会堂が立てられています。『御名のために恥を加えられるに足る者とされた事を喜びつつ』主の御許に帰ったのでヨハネを白い殉教者と言いました。私たちがも全心全霊もて主の愛に応えて、命の限りお仕えしたいものです。

「神の然り」を読んで

辻中 昭一

「神の然り」にはSジョーンズ博士の確信が満ちあふれている。それは生涯かけて博士が祈りつづけられた「サレンダー」を実行するとき、神はキリストにより我らに輝かしい勝利を与え給うとの確信である。そしてこの確信が、博士の晩年の苦難の生活の中で実証されたのである。「神の然り」の中で、キリストこそ暗黒の中の光、絶望の中の希望、不安の中の平安、悲しみの中の喜びの根源であることが豊かな体験と豊富な実例によつて力強く証しされている。信仰者の靈性を養う第一級の著書である。

◆ 淵江 淳一

ヨハネ黙示録(三・一四)に、「アアメンたる者、忠実な、まことの証人、神に造られたものの根源であるかた」と、主イエスと呼んでいる。イエスは「己をむなしうして」(ピリピ二・七)御父を全的に然りとされた。「神の然り」は、イエスに於て成った。ここに福音の独自性がある。仏陀は「ニルバーナの無行動、無感情の状態に進入すること」(P8)を理想としたが、その寂滅の道も破綻せざるを得なかった。「更

(三) 聖霊の啓導と充滿  
(四) 神の国の体験と献身  
(五) 教会への奉仕と伝道

に婆羅門教的なヒンツール教は、人格を超えて非人格的なブラーマになることを求める。(P8)。「彼らは否定によつて生きようと試みている。しかし否定によつて生きることとはできないから」(P9)、ヒンズール教も、仏教も、人間の自我を砕き、潔め、救い、活かす、人格を求めるようになった。それはマヤー(幻影)であったとしても教主待望の祈りにちがひなかった。この人類共通の祈りに答えて、神は独り子イエスを賜わった。「わたしたちすべての者は、その満ち満ちているものの中から受けて、めぐみにめぐみを加えられた。」(ヨハネ一・一六)。

ジョーンズ博士はキリストにあつて、「あなたは否定になることなしには、否定によつて生きることにはできない。」「あなたがイエス。キリストに答える時、宇宙もあなたに然りと言ってくれる。」(P64)と、「無即全」「無即無限」の絶対恩寵を説かれ、またそれを身を以て実現された。この「神の然り」は師の「キリストに明け渡した人生」の貴い記録であり、遺言であり、実証である。

各地からのニュース

▼城北アシュラム(第十三回)報告  
去る二月十一日(木)朝九時半、新築されたシャロームビル三階の新宿西教会で、江古田、池上、天門、



更生の五教会共催の下、主題を『神の然り』として開催した。テキストの聖句は第二コリント一章二〇節。開心の時以前に都内十二教会から七十二名の参会者が会堂に満ち、静かに祈って主の御臨在を仰ぐ。池の上の松田浄師は民教記十四章により、どんな逆境にも不信に陥らず、主の導きに従うべきを勧められた。七つの細胞に分れて祈りの時を持ち、午後一同で交わりの時とし、午後には静聴の時を更生の島隆三師が、ヨハネ福音書十二章により、主の御声を聴くように指導、次で恵みの時は天門の神山良雄師が第一コリント十三章を霊解、再び祈りの細胞に分れて一同一段と深められ、最後の充滿の時は新宿西の岡田実師が『主による新生、不動の御国』へ一同を招き入れ、改変された感謝と喜びの証しが次々に立てられた。僅か一日だが実に恵まれた聖会であった。関東地区ニュースに証しの一編が出ている。読まれたい。

閉会後の委員会で、ホーリネス中央、代々木国際の二教会の今後の協賛を受入れ、一年間の祈禱集の会場と奨励者とを決定して散会した。

▼第十回全国理事會報告

去る三月二二―三日東京目黒みやこ荘に各地区代表理事と在京役員とが会合し、まず開心の時、理事長司会『神の然り』を一同が体験させら

れるよう祈る。次で各地の報告あり、夕食後、連盟議事に入り、役員改選会計決算報告、予算を承認、次年度(二年間)の事業計画を協議した。(二年間)の事業計画を協議した。翌朝七時、静聴の時、岡田実師、朝食後はスタンレーの『神の然り』を各地で参加者に味読するよう勧めること、書店にも出すよう手配することなど話し合い、午前十時から充滿の祈りを九州の川野直人師の司会で守り、一同の祈りで閉会。

新年度(82―83)理事氏名  
 理事長 海老沢宣道(日基江古田)  
 副理事長 中路 嶋雄(扇町)  
 総務 大石 嗣郎(碑文谷)  
 書記 淵江 淳一(カシラン)  
 財務 井本富三郎(ホーリネス)  
 常任 鈴木 留蔵(聖協団)  
 林 勝義(ナザレン)  
 山根 可弐(単立池ノ上)  
 後宮 俊夫(日基、世光)

(地区代表理事)  
 道南 白川 鄭二(日基、函館)  
 東北 村上 東(郡山)  
 関東 岡田 実(新宿西)  
 中部 内村サムエル(アセンプリ)  
 関西 辻中 昭一(日基、扇町)  
 中国 谷本 清(流川)  
 四国 宇都宮 充(単立、愛媛)  
 九州 川野 直人(バブ、田隈)  
 札幌 加藤 亨(札幌、札幌)  
 尚、横山義孝師は今回、教会と神学校を兼務、訪問伝道書記などで御多忙のため連盟書記を辞された。長

年の御協力を感謝する。

○会計決算報告(80―81)

収入	地区分担金	二七八〇〇〇
	賛助献金	四〇四四〇〇
	25年記念募入	五三五〇〇
	広告雑収入	一一〇五〇〇
支出	合計	一、三二八〇〇〇
	本紙印刷代	三、四〇七九〇
	理事會費	三、一九〇〇〇
	広告代	二、〇六〇七〇
	通信雑費	九、五〇〇〇
	前期不足金	二、六三九五
	次期繰越金	三、四〇七四〇
	合計	一、三二八〇〇〇

○主要協議事項

- 一、第五回国際アシュラムに参加。マシウス博士夫妻招聘の件。
  - 二、来る九月二二日より関東、四国、関西、九州、東北その他で開く地区集中応援の件、来る二年間東北と中部を特別応援する。
  - 三、全国教職夫妻アシュラムを八三年春期に開催する。
  - 四、韓国、台湾アシュラムの応援。
  - 五、城西アシュラム(第六回)報告
- 去る四月二九日(木)一日アシュラムが大宮前教会を会場に小金井、高円寺、成瀬の四教会共催の下に開かれ、十教会から三二名参加、エペソ書四章三〇節をテキスト、『聖靈の証印』を主題として、淵江師による開会礼拝、満丸茂師による開心の時、祈りの細胞で更に開心が深められ、中食での交わり、午後から静聴

の時は草村師が、恵みの時は満丸愛彦師がエペソ書の霊味を一同に受取らせ、第二回の祈りの細胞の後、最後の充滿は植村師により『聖靈の証印』を受けた者として、よい証人たらんと決意を新たにされ、一同感謝もて各自に教会へ帰って行った。

◇連盟賛助の祈り

(三八号以降の献金)  
 新年度に入ってから左の通り尊い御献金が捧げられ、運動を進めることができ、感謝です。(総務)

中路 嶋雄	10000
岡田 実	10000
宇都宮 充	10000
淵江 淳一	10000
鈴木 留蔵	20000
川野 直人	10000
道南アシュラム	12000
五味 明子(賛)	5000
大石 啓三(賛)	5000
大石 嗣郎	10000
合計	¥102000.1

大石 扱

海老沢宣道著

アシュラムの原則と実際

定価三〇〇円 千七〇円  
 平易に解説したアシュラムの実践的指導を目的とした参考書  
 日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本クリスチャン・アシュラム連盟

東京都目黒区中央町1-21-10

碑文谷教会気付

日本クリスチャン・アシュラム連盟

▼アシュラムとは故スタンレー・ジョーンズ博士がインドの退修方式を取り入れて創始されたキリスト教の新しい祈禱生活運動である。